

# 戦跡調査・保存運動の 現状と到達点

山梨県立甲府城西高等学校  
浅川 保

8月24～25日甲府・山梨学院大で

「戦争遺跡・資料を保存・活用して戦争の実相を次世代に伝えよう」をテーマに、第6回戦争遺跡保存全国シンポジウム山梨大会が、2002年8月24日～25日、山梨県甲府市の山梨学院大学で開かれた。

1995年、文化庁が文化財指定基準を近代（第2次世界大戦終結時）にまで拡大したことをうけて、戦争遺跡保存運動が全国各地で大きく前進し、1997年7月、長野市松代町で、第1回戦争遺跡保存全国シンポジウムが開かれた。全国から100名が参加し、全体会・分科会・松代大本營の見学などが行われ、戦争遺跡保存全国ネットワークが結成された。以後、第2回が1998年6月に沖縄県南風原町、第3回が1999年8月に京都市立命館大学、第4回が2000年8月に高知県南国市、第5回が2001年8月に川崎市川崎平和館・法政二高で開かれ、今年の山梨大会となった次第である。

24日午前中は、戦時中に立川飛行機の地下工場として掘られた葺崎市の七里岩地下壕と旧甲府連隊の唯一の遺跡で今年修復保存された甲府市の山梨大赤レンガ館を80余名が見学した。午後は山梨学院大学で「21世紀における戦跡保存運動の課題」をテーマにシンポジウムが行われ、海外・全国から200余名が参加し、議論を深めた。

主催者代表あいさつや歓迎あいさつの後、パワーポイント映像「日本の戦争遺跡・2002年」の上映でシンポジウムが始まった。戦跡保存全国ネット代表の村上有慶氏が基調報告で、このほど文化庁が将来の史跡指定に向けて50件の調査対象遺跡（資料1）を選定したことを評価しながら、川崎市の旧海軍東京通信隊蟹ヶ谷分遣隊地下壕や松本市里山辺地

下壕など漏れている重要遺跡の追加を要求、「日本国憲法の立場からの視点抜きには、本当の意味で戦跡を残すことにならない。戦争の語り部としての戦跡を残し平和を守ろう」と呼びかけた。ついで、松代大本營を保存する会の大日方悦夫氏が「平和教育にとっての戦争遺跡」、戦跡考古学研究会の菊地実氏が「戦跡考古学からの報告」、立命館大学の山辺昌彦氏が「平和博物館をめぐる現状について」と題して報告し、フロアーからの発言も交えて各地の取り組みの交流が行われた。

## 中国からの特別報告

さらに、中国ハルビン市の東北烈士紀念館・黒竜江省革命博物館副館長の干濱力さんが、「中国・東北烈士紀念館と中国東北部戦争遺跡群」と題して特別報告。東北烈士紀念館は中国でもっとも早く戦争遺跡の調査と研究を始め、全ての関東軍国境要塞を全面的に調査し、専門の要塞研究機構を成立させた。さらに日本の研究者と共同で、虎頭要塞をはじめ東寧・ハイラルなど多くの国境要塞について大規模な調査と研究を行い、大きな成果をあげてきたということで、日本人研究者に感謝するとともに、「戦跡保存を通しての中日友好を」と訴え、満場の拍手をあびた。

地域報告では、山梨戦跡ネットワークの浅川保が、県内各地の戦跡保存の会の立ち上げから、山梨ネットワークの結成、ガイドブック『山梨の戦争遺跡』の刊行、今年の全国シンポの開催、そして、山梨平和資料館の設立をめざしたいと報告。また千葉戦跡ネット設立準備会の野口政和氏からは、館山の地下要塞や戦跡群など県内各地に残る戦争遺跡の保存をすすめる、「千葉戦跡ネットワーク」の結成や、『千葉県の戦争遺跡』の発行をめざして取り組んでいると報告があった。

## 全国各地から多彩な29本のレポート

25日は、戦跡保存運動の現状と課題、戦跡の調査方法と保存技術、平和博物館と若者への継承の3つの分科会と閉会集會が開かれた。分科会では、各地の戦跡保存・活用の取り組み、平和学習・次世代への継承など多彩な29本のレポートが報告された。今日の戦跡保存運動の現状と到達点を示す意味で、以下レポート名・報告者名を紹介する。

第1分科会（戦跡保存運動の現状と課題）①山梨

県郡内地域の戦争遺跡（山梨戦跡ネットワーク 安藤正文）②日本本土空襲で墜落した米軍機の遺物・慰霊碑等について（戦跡に平和を学ぶ京都の会 福林徹）③国立ハンセン病療養所沖繩愛楽園の戦争遺跡（沖繩平和ネット 吉川由紀）④武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会の活動について（武蔵野の空襲と戦跡を記録する会 牛田守彦）⑤調布飛行場の掩体壕保存運動（調布の掩体壕を保存する会 上野勝也）⑥日吉台地下壕の保存運動（日吉台地下壕保存の会 新井探博）⑦宇治火薬製造所と赤レンガ館の保存（戦跡に平和を学ぶ京都の会 磯崎三郎）⑧浅川地下壕の保存を進める会のこの1年間の活動（浅川地下壕の保存をすすめる会 山梨喜正）⑨戦争遺跡は語る「軍は国民を守らなかった」と（掩体壕を文化財に推進する会 窪田充治）⑩松代大本営ガイド養成講座について（松代大本営の保存をすすめる会 島村晋次）

第2分科会（戦跡の調査方法と保存技術）①横浜・川崎戦争展プレイベント中間報告（日吉台地

下壕保存の会 関崎益男）②私が経験した中日共同調査（中国・東北烈士紀念館 王功天）③旧満州国における戦争遺跡調査（関東軍国境要塞戦跡研究会 伊藤厚史）④山梨大学赤レンガ館の歴史的意義（山梨戦跡ネットワーク 久保田要）⑤浅川地下壕の測量調査と記録（浅川地下壕の保存をすすめる会 峯尾邦彦）⑥自然洞穴（ガマ）をどのように測量するか（沖繩平和ネット 大城牧子）⑦松本市里山辺地下工場の発掘調査（松本市教育委員会 熊谷康治・沢柳秀利）⑧舞鶴の戦争遺跡（山梨学院大学考古研OB 後野裕昭）

第3分科会（平和博物館と若者への継承）①七里岩地下壕を学校教育にどう生かすか（山梨戦跡ネット 向山三樹）②有事法制・国家総動員法と日吉台地下壕（日吉台地下壕保存の会 岡上そう・富沢慎吾）③学生の戦争観・平和意識と立命館大学国際平和ミュージアム（立命館大学 森下徹）④教科書が語る20世紀展を通じた次世代への継承（平和人権子どもセンター 吉岡数子）⑤東京大空襲戦災資料セ

資料1「近代遺跡（軍事に関する遺跡）地域別詳細調査対象物件（案）」（50件）

- ①旧陸軍第7師団関係遺跡（北海道旭川市）②函館戦争関係遺跡一矢不來台場跡、川汲台場跡、峠下台場跡（北海道上磯郡上磯町ほか）③旧函館要塞（北海道函館市）④旧第八師団一騎兵第八連隊追馬場、司令部前庭、野砲兵第八連隊追馬場・兵舎、師団長官舎、将校俱樂部併行社、射的場（青森県弘前市）⑤旧陸軍省軍馬補充部六原支隊関係遺跡（岩手県胆沢郡金ヶ崎町）⑥旧軍馬補充部白河支隊関係遺跡（福島県西白河郡西郷村）⑦海軍土浦飛行隊関係遺跡一本部庁舎跡、士官官舎跡、医務科跡、衛兵所跡（茨城県稲敷郡阿見町）⑧東京湾防衛砲台群—富津元洲堡壘砲台跡、第一・第二海堡、猿島砲台、花立堡壘砲台、三軒家砲台、腰越堡壘砲台、観音崎砲台、観音崎北門第一・第二・第三砲台（千葉県富津市、神奈川県横須賀市、三浦市）⑨第一台場（東京都港区）⑩2、26事件関係遺跡—旧歩兵第一連隊本部、旧歩兵第三連隊（東京都港区）⑪旧近衛騎兵連隊関係遺跡（東京都新宿区）⑫旧陸軍砲兵工廠関係遺跡（東京都文京区）⑬東京砲兵本廠関係遺跡（旧陸軍造兵廠東京第二造兵廠関係遺跡）—板橋製造所、岩島製造所（東京都板橋区、群馬県高崎市）⑭浅川地下工場跡（東京都八王子市）⑮東京陸軍航空学校関係遺跡（東京都武蔵村山市）⑯小笠原における戦争関係遺跡—父島 要塞司令部官舎、宮之浜震洋隊基地、海軍通信隊、清瀬弾薬庫他遺跡群、海軍重油庫他遺跡群、海軍監督隊陣地、夜明山通信施設、師団司令部、海軍飛行場、高山監視哨、海軍ダム、母島 庚申塚探照灯、小富士砲台、西浦震洋隊基地、中岬砲台、大剣先山水平砲、評議平高射砲群（東京都小笠原村）⑰日吉台地下壕（神奈川県横浜市北区）⑱陸軍第九技術研究所（登戸研究所）（神奈川県川崎市多摩区）⑲旧横須賀鎮守府関係遺跡（神奈川県横須賀市）⑳相模野海軍航空隊（厚木基地）（神奈川県綾瀬市・大和市）㉑生地台場（富山県黒部市）㉒松代大本営予定地地下壕（長野県長野市）㉓旧豊川海軍工廠（愛知県豊川市）㉔旧八日市飛行場関係遺跡（滋賀県八日市市）㉕旧舞鶴鎮守府及び舞鶴要塞関係遺跡群—煉瓦倉庫群、浦入砲台跡、葎谷砲台跡、建部山堡壘砲台跡、横山砲台跡、金崎砲台跡、吉坂堡壘砲台跡、博岬探照灯跡、下安久弾丸本庫跡、白杉弾丸本庫跡、旧海軍機関学校庁舎・大講堂・隊舎・校舎（京都府舞鶴市）㉖旧第4師団関係遺跡（大阪府大阪市中央区）㉗大阪砲兵工廠（旧陸軍宇治火薬製造所跡を含む）（大阪府大阪市中央区）㉘大阪北部における地下壕群—高槻成合地下工場、大阪警備府軍需部安威倉庫跡、旧陸軍関係地下壕（大阪府高槻市・茨木市）㉙友ヶ島・深山砲台群（和歌山県和歌山市）㉚旧歩兵四十連隊跡（鳥取県鳥取市）㉛陸軍第十七師団関係遺跡—司令部、砲兵第二大隊、輜重隊第十七大隊本部・浴場（岡山県岡山市）㉜旧陸軍広島湾要塞関係遺跡（広島県佐伯郡宮島町ほか）㉝旧海軍呉鎮守府及び呉海軍工廠関係遺跡（広島県呉市）㉞旧海軍兵学校関係遺跡（広島県安芸郡江田島町）㉟旧陸軍芸予要塞大久野島砲台及び旧陸軍造兵廠火工廠忠海兵器製造所（広島県竹原市）㊱陸軍下関要塞関係遺跡—司令部跡、靈鷲山砲台兵舎壕、火の山砲台兵舎跡、蓋井島砲台（山口県下関市）㊲角島軍関係遺跡—海軍望楼跡、陸軍監視所台座、弾薬庫、倉庫（山口県豊浦郡豊北町）㊳海軍大浦水上飛行機基地—兵舎、格納斜路、格納壕（山口県大津郡油谷町）㊴大津島回天特別攻撃基地（山口県徳山市）㊵旧陸軍第十一師団—併行社、司令部、兵器庫、輜重隊（香川県善通寺市）㊶前浜砲台跡（高知県南国市）㊷大刀洗飛行場関係遺跡—掩体壕、射撃場跡、排水路、燃料庫、格納庫、航空廠倉庫跡、構内鉄道跡ほか（福岡県大刀洗町ほか）㊸旧陸軍歩兵第56連隊関係遺跡（福岡県久留米市）㊹四郎ヶ島台場（長崎県長崎市）㊺旧佐世保鎮守府防衛砲台群（長崎県佐世保市）㊻対馬の砲台群（長崎県対馬）㊼西南戦争関係遺跡—田原坂古戦場、耳川壘壕群、有栖川征討宮殿下御本宮跡、官軍墓地（熊本県、大分県、宮崎県）㊽戦争関係遺跡（鹿児島県川辺郡知覧町）㊾旧海軍司令部壕（沖縄県島尻郡豊見城村）㊿南原陸軍病院壕（沖縄県島尻郡南原町）

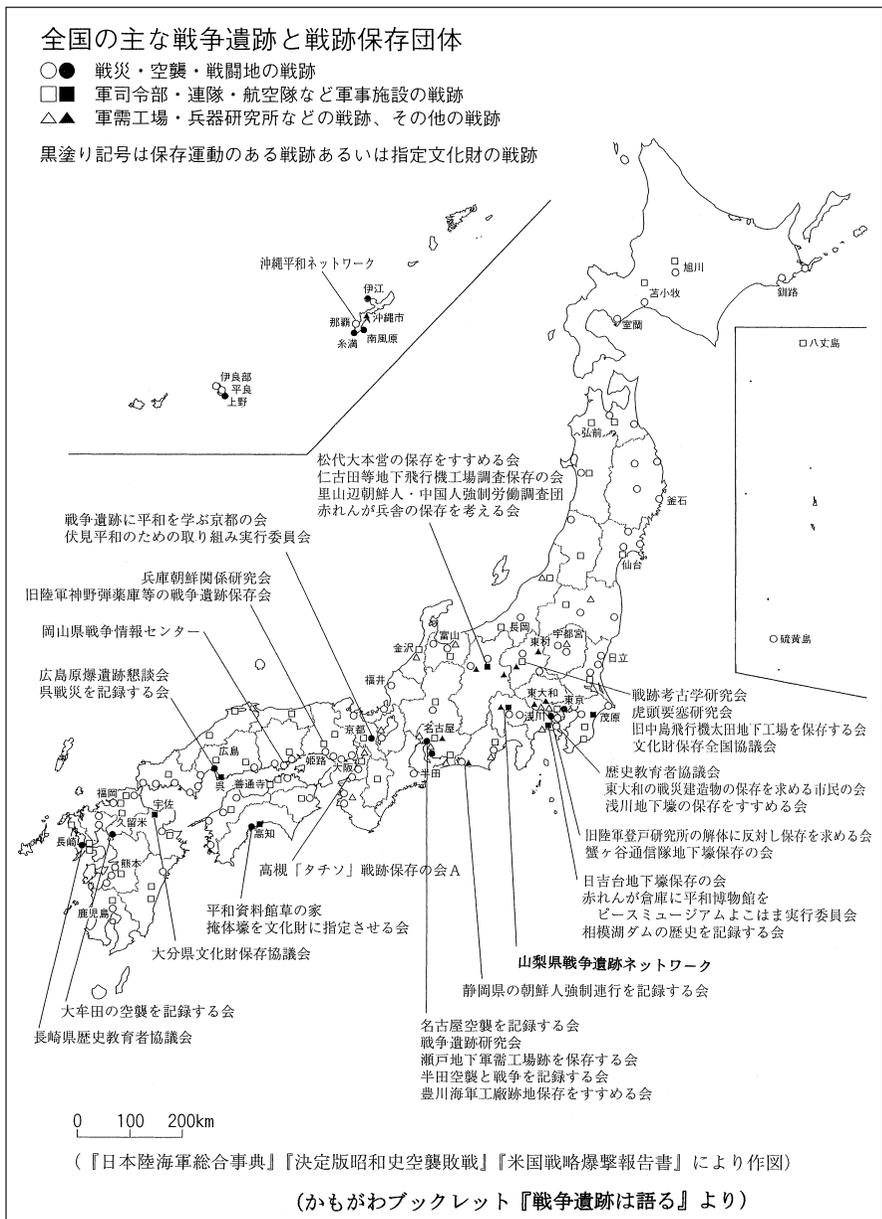
ンター設立までの経過と今後の課題（東京大空襲戦災資料センター 梶慶一郎）⑥地域の戦争遺跡を平和学習に活用するために（沖縄平和ネット 川満昭広）⑦第5福竜丸展示館で若い世代に伝える取り組み（都立第五福竜丸展示場 安田和也）⑧犠牲の継承・ヨーロッパの戦争遺跡をめぐって（山梨学院大学 小菅信子）⑨平和博物館・平和博物館建設運動の現状と課題（平和資料館 麦の家 山根和代）⑩奉安殿について（山梨戦跡ネット 志村欣一）⑪ホロコースト教育資料センターの活動について（ホロコースト教育資料センター 黒川万千代）

閉会集会では戦跡保存全国ネット

代表の十菱駿武氏が「戦跡保存への理解や反響が広がり、戦跡ネットワークが市民権を得られた大会であった」と閉会のあいさつをし、2日間にわたる大会の幕を閉じた。

おわりに

2日間にわたり国内・国外（中国）から200名をこえる参加者が集まって交流を深め、山梨から全国・世界に、「戦跡保存・ノーモア戦争遺跡！」をアピールした第6回戦跡全国シンポジウム山梨大会



は、盛況裡に終わった。また、考古学研究者・学芸員らに混じって高校の社会科教員の姿も多く見られた。21世紀、戦争体験者のいなくなる時代、戦争遺跡の保存・活用、そして教材化がますます重要になってきている。

戦争遺跡に関する問い合わせは、戦争遺跡保存全国ネットワーク（長野市若里3-5-5 希望の家 TEL026-228-8415）へ。また、全国・世界の戦争遺跡の現状・戦跡保存運動の到達点を示す『戦争遺跡の事典』（十菱駿武・菊地実編 柏書房）も好評発売中です。ご活用頂ければ幸いです。